

トップアスリートを招き交流、新規会員を獲得 （千種ふれあいくらぶ 千葉縣市原市）

1. クラブの概要

千種ふれあいくらぶは育成指定クラブ（現：創設支援クラブ）として、千葉縣市原市で初めての総合型地域スポーツクラブとして平成20年3月に設立しました。その後、自立支援事業を受けており、平成24年度で助成5年目になります。

市原市千種にある千種地区まちづくり協議会の傘下のクラブで、千種コミュニティセンターを拠点とし、千種中学校区を活動地域としています。地元市原市の木材で建設された温かみのある千種コミュニティセンターや、千種小学校・中学校の体育館、グラウンドを活動施設として使用しています。

千種ふれあいくらぶは総合型地域スポーツクラブを地域の活性化をはかるツールとして考え、地域住民のニーズを重要視したクラブ運営をしています。クラブ設立前は100人くらいの会員数を予想していましたが実際には800人も集まり、その後、現在は600人ほどに落ち着いています。

会員は年会費1,000円を支払って参加しますが、教室やイベント、講習会などは会員以外も1回500円のワンコイン程度で参加することができ、その参加しやすい体制が会員以外の参加者を増やしています。頻繁に動くことのできない高齢者や忙しい人たちは、チケット制での「都度払い」がニーズに合うようで、会員は1回300円～500円程度の参加費で利用しています。クラブの委員は地域住民が出しやすい金額を考え、たくさんの人に参加してもらいたいというスタンスは設立当初から変わりません。



多目的室での社交ダンス教室

2. 助成金をもらった目的と使途、成果

千種ふれあいくらぶがスポーツ振興くじ助成事業（総合型地域スポーツクラブ自立支援事業、以下 toto）の助成を申請したのは、市からの助成金を含む支援がなかったことや、今では安定して600人いる会員が、当初はどれくらい入会してくれるのかが見えなかったことがきっかけです。代表の笈田氏は、まず初めに「最初から助成金をあてにしないクラブ運営」を心がけました。助成金をもらっていても自主運営を想定しての活動を行い、クラブマネジャーは年間で44万円の賃金に抑えて、運営スタッフ等は基本的にボランティア体制での運営をしています。

toto 助成金の7割は教室の指導者謝金で使っていますが、クラブの広報にもなるトップアスリートを指導者として招く場合や、元プロ選手等を指導者に配置する場合に、特に助成金を使うようにしました。このイベント事業を通して元全日本の女子バレー選手で全日本選手権優勝などの実績をもち、引退後、実業団で指導を行っていた向井久子氏にたまたま出会うことができました。向井氏による「ママさんバレー」の教室は月2回ですが、1回50人を超える参加者が集まり、他のどの教室よりも参加者を集めています。平成24年度もバレーボールやサッカーなどのイベントでトップアスリートを招く際に助成金を使う予定です。

また、地域住民への周知のため、1回5万円で地域新聞に広告として大きく取り上げてもらうなど、広報活動にも重点をおいて助成金を使っています。このように toto 助成を受けたことで、クラブではトップアスリートとの交流が可能になりました。自分たちだけではなかなか広範囲に

発信できなかった広報活動も、「広告」という形で発信したことで、多くの方へ千種ふれあいくらぶを知ってもらい、興味を持ってもらうことができたそうです。

3. 活動場所の課題が浮上

千種ふれあいくらぶは、千種地区まちづくり協議会の一事業として展開し、まちづくり協議会が指定管理している千種コミュニティセンターを拠点として運営してきました。平成 22 年度の年間延べ利用者 47,500 人のうち、クラブ会員の利用は 9,788 人で 2 割程度でしたが、市からは千種コミュニティセンターの占有を指摘され、クラブは千種コミュニティセンターを平成 23 年度で離れることに決めました。

現在、バレーボールやサッカーなどの本格的なスポーツ活動以外の教室は千種コミュニティセンターで行っていますので、ほとんどの教室は活動場所がなくなり、千種ふれあいくらぶが事務局を構えていた拠点も移さなければならなくなります。

しかし、単一の種目を仲間同士で行う「一般サークル」の位置づけであれば千種コミュニティセンターをこれからも使用することができます。地域住民や参加者のことを一番に考えるクラブ側は、現在クラブの中にある教室を「一般サークル化」することで、会員がこれまでと変わらない活動が出来るように考えています。

このような事態に伴い、クラブでは会員数の減少が危惧されていますが、クラブの次のステージへ向けて新たなスタートを切る機会になればと前向きに受け止めています。



代表の笈田氏(向かって左)とマネージャー田中氏

4. アフターtoto に向けて

toto 助成金終了後は活動場所の問題もあり、クラブには明確な見通しがあるわけではありません。千種ふれあいくらぶの運営費用は、1 回の参加費から 1 人 100 円が活動原資になっています。仮に 300 人の会員が月平均 2 回活動すれば、月 60,000 円の収入になり、500 人であれば月 100,000 円になります。その予算の範囲で基本的に事務局をまわしていくことを考えています。しかし、クラブと教室の連携を密にして、教室の参加者数を増やす広報やクラブとしての魅力を発揮するために、クラブ側への運営費用の配分を増やすことも考えられます。

最初から「助成をあてにしない」というスタンスであったために、クラブ運営は今後も継続可能ですが、ただ、本格的な「自立」を考えたときに、継続的に使用できる活動場所、拠点を移すことによる会員数の減少からもたらされる運営費の減少、運営スタッフや後継者の不足…と、さまざまな課題が見えてきました。

そういった課題を解決していくために、まず「千種ふれあいくらぶ」が提供する内容や魅力を再検討し、新しい会員を獲得していく必要があります。現在、地区で増えている「子どものいる家族」をターゲットにした新しい事業を実施していくことも考えられます。そのための新たな担当委員や外部協力者を増やして、様々な意見を取り込んでいくことも望まれます。

また、会員の声を直接聞く機会を設けたりアンケートを実施したりして、「千種ふれあいくらぶに参加するようになって健康面・人間関係面がこんなに豊かになった!」といった参加者の声を積極的に発信することも重要です。このような地域住民の声を市に届けることで、市との連携や広報面などでの協力を得ていくことも可能になってくるかもしれません。

平成 24 年度に toto 助成が終了する千種ふれあいくらぶは、「クラブ」として本当の意味で「自立」をしていくために、これからが正念場になってくるでしょう。その中でも、地域住民や参加者のことを第一に考えるその姿勢を大切にしてほしいと思います。

(片岡夕貴 千葉県クラブ育成アシスタントアドバイザー)

【千種ふれあいクラブ プロフィール】

1. 設 立 設立年月日：平成 20 年 3 月 1 日
設立経緯：千種地区まちづくり協議会を母体とし設立
2. 地 域 人口：約 14,000 人（市原市千種地区、平成 24 年 2 月現在）
特性：市原市は千葉県の北西部にあり人口約 28 万人。千葉県を代表する工業都市。ゴルフ場の数は日本一。
3. 運 営 会員数：580 人（平成 23 年 10 月現在）
予 算：約 710 万円（平成 23 年度、うち toto 助成金の割合 51%）
4. 特 徴 地域の活性化をはかるツールとしてたくさんの人が参加しやすい体制と、豊富な教室数を持つ
5. 連絡先 〒299-0109 千葉県市原市千種 2 丁目 1 番地 2
TEL：0 4 3 6－2 6－1 5 1 5、FAX：0 4 3 6－2 6－0 5 0 5
（上記は、平成 24 年 3 月まで）
URL：<http://www.chigusa-fureai.net/>

関連リンク：片岡タ貴氏プロフィール（ページ下）

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/12.html>